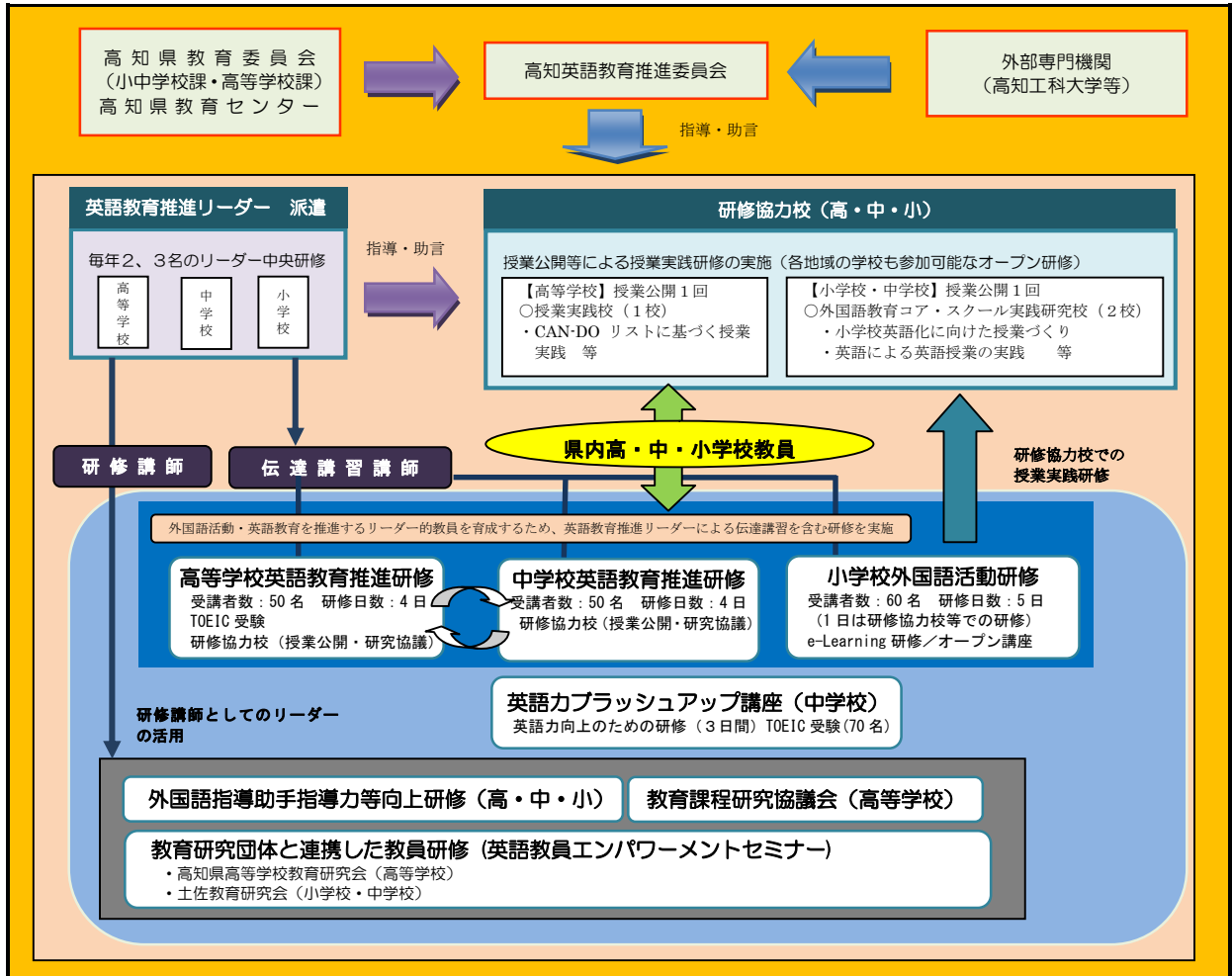


高知県英語教育改善プラン

1. 実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

①求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

【現状】 ・求められる英語力を有する教員の割合（高等学校 53.7% 中学校21.1%）

【目標】 ・平成28年度までに高等学校60%中学校28%、平成29年度までに高等学校65%中学校35%の目標達成を目指し、平成32年度までに高等学校75%中学校50%の目標達成を目指す。

【方策】 ・英語力と指導力の向上を目的とした研修の実施（英語教育推進研修、英語力ブラッシュアップ講座、外国語教育コア・ティーチャー育成事業等を実施し、英語担当教員の英語力向上や求められる授業づくりについての指導内容や指導方法、学習評価等について研修を行う）

②求められている英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

【現状】 ・求められる英語力を有する生徒の割合（高等学校 25.5% 中学校 25.8%）

【目標】 ・平成28年度までに高等学校・中学校ともに30%、平成29年度までに高等学校・中学校ともに35%の目標達成を目指し、平成32年度までに高等学校・中学校ともに50%の目標達成を目指す。

【方策】 ・英語担当教員の指導力の向上を目指した上記①の研修の実施
 ・中学校授業改善プランに基づいた学校支援訪問指導（授業公開・協議）の実施
 ・「高知これ単語彙検定」及び読み物教材の活用推進を通して、生徒の英語のコミュニケーション能力の向上を図る。
 ・4技能を統合したパフォーマンステスト等を単元に位置付けることで、単元の各単

位時間の役割を明確にし、コミュニケーション活動の機会を増やす。

- ・年度ごとの達成値を把握し、成果のある取組の事例を取り上げ、次年度の参考として広く紹介し指導に役立てる。

③「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

- 【現状】 ・学習到達目標の整備状況（高等学校 設定100% 公表76.3% 達成状況の把握60.5%）
（中学校 設定 100% 公表 24.5% 達成状況の把握 58.4%）
- 【目標】 ・学習到達目標の公表については、平成28年度までに高等学校100%中学校50%を目指す。平成29年度までに高等学校と中学校の両方が学習到達目標を公表し、その達成状況を把握している数値を100%となるように目指す。
- 【方策】 ・高等学校、中学校ともに、平成27年度段階でCAN-DOリストの作成については100%を達成している。今後は、学校支援訪問等を行うことにより、各校が生徒や保護者等にCAN-DOリストを公表することや、その達成状況の把握を行い授業改善が図られるように指導助言を行う。

④授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

- 【現状】 ・生徒が英語による言語活動を授業時間の50%以上行っている割合
（高等学校 48.0% 中学校 75.9%）
- 【目標】 ・平成28年度までに高等学校55%中学校100%、平成29年度までに高等学校60%中学校100%の目標達成を果たす。
- 【方策】 ・実践拠点校を指定し、域内の学校に対して、モデルとなる授業公開及び研究協議を実施し、研究成果の普及を行う。
- ・生徒の言語活動の割合及び英語担当教員の英語使用量を増加させるため、英語教育推進リーダーによる研修を通して、英語による授業の進め方や効果的な言語活動の在り方について理解を深め、授業力の向上を図る。
 - ・高等学校については、指導力向上研修を通じて、言語活動の割合を増やすよう求める。

⑤「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

- 【現状】 ・スピーキングテストの実施回数（高等学校 2.4回 中学校 3.1回）
・ライティングテストの実施回数（高等学校 1.3回 中学校 1.5回）
- 【目標】 ・高等学校において、スピーキングテストを平成28年度までに3回、平成29年度までに4回実施し、ライティングテストを平成28年度までに2回、平成29年度までに3回実施する。中学校において、スピーキングテストとライティングテストを平成28年度までにそれぞれ5回実施し、平成29年度においてもその回数を維持する。
- 【方策】 ・「授業改善プラン」（高知県が進めている授業改善プラン）に基づく学校支援訪問や英語教育推進研修を通して、CAN-DOリスト形式の学習到達目標の設定及び達成状況の把握を意識させ、指導と評価の一体化を図る。
- ・英語教育推進リーダーによる研修を通して、「話すこと」及び「書くこと」の言語活動や評価の在り方について理解を深め、自校における指導と評価に生かし、授業改善に努める。
 - ・評価の回数を増やし、評価に占める割合を増やす。

⑥授業における、英語担当教員の英語使用状況

- 【現状】 ・教員が発話の50%以上を英語で行っている割合（高等学校 47.8% 中学校62.2%）
- 【目標】 ・高等学校においては、平成28年度までに55%、平成29年度までに60%の目標達成を目指す。中学校においては、平成28年度までに100%の目標達成を目指し、平成29年度はその数値を維持する。
- 【方策】 ・英語教育推進リーダーによる研修を通して、英語による授業の進め方や効果的な言語活動について理解を深め、生徒の言語活動の割合及び英語担当教員の英語使用量を増加させる。

- ・教員自ら英語を使い、授業を進めることができる英語力を身に付けるために、英語担当教員の指導力向上研修を実施する。
- ・研修協力校での授業実践研修に参加し、授業の進め方等について学ぶ。
- ・TOEICなどの外部検定試験などを受験することで教員の英語力を高める。

⑦域内小学校における相応の英語力を有する教員の割合

- ・平成29年度までに1%の目標達成を果たす。

⑧研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

- 【現状】 ・研修実施回数（高等学校5回 中学校4回 小学校5回）
 ・研修受講者数（高等学校25名（15.2%） 中学校24名（12.8%） 小学校24名（9.6%））
- 【目標】 ・平成28年度までに高等学校40%中学校35%、平成29年度までに高等学校・中学校ともに60%を目指す。高等学校・中学校ともに、平成31年度に100%の目標達成を果たす。
 ・小学校は、平成29年度までに149名の外国語活動担当教員が受講し、平成31年度までに250名の外国語活動担当教員が受講を終え、各校に1名は教科化に対応できる教員を育成する。
- 【方策】 ・英語力と指導力の向上を目的とした英語教育推進研修及び小学校外国語活動研修を実施する。

（3）研修の体系と内容の具体

【研修の体系】

外部専門機関と高知県教育委員会・高知県教育センターとで、高知英語教育推進委員会を組織する。推進委員会の委員がそれぞれの研修について指導・助言等を行い、さらに研修の内容を深め、研修効果を高める。

【研修内容の具体】

研 修 名： 英語教育推進研修

研修対象者： 高等学校・中学校・特別支援学校英語教員

研 修 目 的： 英語教員の指導力、英語力を向上させる。

内 容： ・英語教育推進リーダーによる授業力向上講座
 ・外部有識者によるワークショップ
 ・中高の英語教員による英語授業に関する協議

受講予定者数： ・高等学校 48名（2グループ）×4回
 ・中学校 50名（2グループ）×4回

英語力評価テスト： 外部検定試験（高等学校のみ。中学校教員は他の研修（英語力ブラッシュアップ講座）で検定試験を行う）

研修の評価方法： 参加教員によるアンケート（各研修終了後、全研修終了後）

次年度以降： 31年度まで実施

外部専門機関及び研修協力校とのかかわり： 大学教授等からの助言・指導・講義等

（ 高知工科大学 長崎政浩 教授
 岐阜県立関高等学校 亀谷みゆき 教諭（予定） ）

研 修 名： 英語力ブラッシュアップ講座

研修対象者： 中学校教員

研 修 目 的： 中学校教員の英語力を向上させる。

内 容： TOEIC 対策講座の実施

受講予定者数： 70名×3回（平成28年度から3年間で全中学校英語教員受講）

英語力評価テスト： TOEIC 受験

次年度以降： 30年度まで実施予定

外部専門機関及び研修協力校との関わり：大学教授からの助言・指導・講義等

研 修 名： 小学校外国語活動研修

研修対象者： 小学校教員（外国語活動・英語指導のリーダー的教員）

研 修 目 的： 小学校教員の英語力・指導力を向上させる。

内 容： ・英語教育推進リーダーによる授業力向上講座（集合研修5日のうち1日は研修協力校等で実施）
 ・外部有識者によるワークショップ
 ・e-Learningによる英語力向上（自宅や職場で適宜実施）

受講予定者数： 小学校 60名（3グループ）×5回

英語力評価テスト： e-Learning レベル診断

研修の評価方法： 参加教員によるアンケート（各研修終了後、全研修終了後）

次年度以降： 平成31年度まで実施予定（平成27年から平成31年の5年間ですべての公立小学校に英語の教科化に対応できる教員を1名以上育成する）

外部専門機関及び研修協力校との関わり：大学教授からの助言・指導・講義等

〔 国際教養大学 内田浩樹 教授
 大阪教育大学 加賀田哲也 教授 〕

研 修 名： 教育課程研究協議会（高等学校）

研修対象者： 各公立高等学校の英語科教員（全日・定時・通信から各1名）

研 修 目 的： 講演及び事例発表、研究協議等を通じて、外国語科の授業実践や評価の方法などを学習指導要領に対応して改善する各校の取組を支援することで、英語科教員の教科指導力の向上を図り、生徒の英語学習の意欲を向上させるとともに、国際共通語としての英語力の向上を図る。

内 容： 外部講師による講演、研究協議及び情報交換等

受講予定者数： 約60名

研修の評価方法： 参加教員によるアンケート

次年度以降： 英語教育に関する知識の習得等

外部専門機関及び研修協力校との関わり：大学教授等からの助言・指導・講義等

研 修 名： 英語教員エンパワーメントセミナー

研修対象者： 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校英語教員（希望者）

研 修 目 的： ・英語教育に関する知識の習得と実践的指導力・教科の専門性を向上させる。
 ・教育研究団体と連携して研修を実施することにより、自主研修組織を活性化させる。

内 容： 外部講師によるワークショップ

受講予定者数： 100名

研修の評価方法： 参加教員によるアンケート

次年度以降： 小中高の教員が交流できる自主研修組織を活性化させるため、継続実施予定

外部専門機関及び研修協力校との関わり：大学教授からの助言・指導・講義等

〔 上智大学 逸見シャンタール 准教授 〕

研 修 名： 高知県外国語指導助手指導力等向上研修

研修対象者： 外国語指導助手、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校英語教員

研 修 目 的： 「語学指導等を行う外国青年招致事業」（以下、「JETプログラム」という。）による招致外国青年のうち、市町村（学校組合）立学校及び県立学校において語学指導に従事する者（以下、「外国語指導助手」という。）に対し、一層効果的な語学指導をするために必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、本県の外国語教育の充実を図る。

内 容： 外部講師によるワークショップ
 受講予定者： 110名
 研修の評価方法： 参加教員によるアンケート
 次年度以降： 継続実施予定
 外部専門機関及び研修協力校との関わり： 大学教授からの助言・指導・講義等
 [文教大学 北野マグダ・レーナ 講師]

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月	英語教育推進リーダー 打ち合わせ会 高知英語教育推進委員会 小学校外国語活動研修 I 英語教育推進研修 (高・中) I 英語カブラッシュアップ講座	高知工科大学 長崎政浩教授 元県立高等学校 教頭 北原初枝 外部講師
6月	小学校外国語活動研修 II 英語教育推進研修 (高・中) II 教育課程研究協議会 (高等学校・外国語)	国際教養大学 内田浩樹教授
7月	小学校外国語活動研修 III 英語教育推進研修 (高・中) III 英語教員エンパワーメントセミナー	上智大学 逸見シャンタル准教授
8月	英語教育推進研修 (高・中) IV 外部検定試験 (高) 英語カブラッシュアップ講座	岐阜県立関高等学校 亀谷みゆき教諭 外部講師
9月	高知英語教育推進委員会	外部講師
10月	小学校外国語活動研修 IV (研修協力校等で実施)	
11月	研修協力校における授業公開 (9月～1月) 英語カブラッシュアップ講座	外部講師・TOEIC 受験
12月	高知県外国語指導助手指導力等向上研修	文京大学 北野マグダ・レーナ講師
1月	小学校外国語活動研修 V	大阪教育大学 加賀田哲也教授
2月	高知英語教育推進委員会 英語教育推進リーダー 打ち合わせ会 教育課程研究協議会 (高等学校・外国語)	高知工科大学 長崎政浩教授 元県立高等学校 教頭 北原初枝
3月		
【その他の取組】		

